

## 日本語教室の継続と発展のための方策について

八街市国際交流協会アドバイザー 鶴森 英夫

### 1. 研修で設定した課題及びその背景

現在の日本語クラスは、市の公民館を利用しているが、市からの金銭的援助は受けていない状況である。月に2回（第2，第4土曜日）1時間30分程度実施している。毎回20名前後の受講者があり、ボランティア講師とほぼ1対1で学習することを基本としていたが、最近、アフガニスタン人を中心に急激に増加しており、4，5人の受講者にボランティア講師が1名という状況も見られるようになった。受講者は小学生から60代ぐらいまで様々である。特定のカリキュラムや指定教科書ではなく、その場その場で対応している状況であり、今後はそれぞれの受講者のニーズに応えられるように、現状把握の後、ニーズに沿ったカリキュラム策定及び会の運営を行いたいというのが当初の課題設定であった。

### 2. 実践の内容

#### 1) 2024年10月27日（土）「国際理解と日本語教育」の講演会の実施

千葉県 JICA シニアボランティアの会との共催である『八街市国際理解大学』において、「国際理解と日本語教育」の講演会を企画実施。外国人が人口の5%を占める八街市において多文化共生社会を実現させるために日本語教育が果たせる役割を考えることをテーマとし、八街市のボランティア日本語教師等を主な対象として実施。

#### 2) 11月21日（木）秋期研修

研修会において参加者の皆さんからご意見を伺い、国際交流協会の運営状況を正確に把握する必要性を感じた。

#### 3) 12月14日（土）八街国際交流協会の会長及び執行部役員との面談の実施

現在の資金難の状況を把握した。ボランティア教師には交通費として1000円/回で支出。収入は国際交流協会会費、地元企業の寄付などから運営しているが、赤字が出ており、個人的に負担などで、やっと今年を乗り切った状況。来年度継続できるかどうか難しい状況。公民館は週1回使用できるように予約はできているが、現実には1ヶ月に2回実施の現状維持も難しいと考えている。事務作業を統括しているのは、市の担当部署である企画政策課前課長で定年退職後に無償で行っている。本年度は市長への直接面談を2回実施し、担当課長への提言もお願いした。議会においても外国人対策の取り組みの質問もしてもらった。

#### 4) 12月21日（土）ボランティア日本語教師との面談

ボランティア講師も受講者も日本語教室の継続を望んでおり、現在の月に2回の実施というのは、少ないと感じている。多くの受講者にとって日本人と接する機会がほとんどなく、日本語を学ぶだけではなく、この場に来ることを楽しみにしているようだ。この日は、中国からの受講者が中国の笙の演奏をし、ミニコンサートのよう場所となった。

#### 5) 2025年1月11日（土）八街地域の影響力のある外国籍の方と面談

この地域でビジネスを展開している中国人、バングラデシュ人、スリランカ人との面談を実施。地域の外国人で食べ物を持ち寄ってパーティーなどを時々行っており、近隣の日本人に声をかけたこともあるが、参加してくれる人はいない。できるだけ、地域の日本人と交流する機会を持ちたいという意見があった

#### 6) 1月25日(土) 千葉県 JICA シニアボランティアの会との会議の実施

4年前から実施している『八街市国際理解大学』の来年度実施について、千葉県 JICA シニアボランティアの会会長と八街市国際交流協会会長を呼び会議を実施

#### 7) 2月7日(金) 地域コーディネーターオンライン講習

### 3. 実践を通しての成果及び課題

当初の課題としていた日本語教室の受講者のニーズに応えるようなカリキュラム作りや体制強化という問題よりも、会を継続できるかどうかという深刻な課題に直面していることがはっきりとし、現状を把握できたことは成果だとも言える。

八街市は外国人住民が決して少なくないが、外国人に対する市の相談窓口はなく、市側は災害時の対応も含め、国際交流協会に対応しているという回答。国際交流協会は外国人の相談窓口としても十分ではないが対応しているので、なんとか持続させたいと思っている。会長は市の教育委員も兼任しており、事務統括者も前企画政策課長であり、市とのパイプはあるのだが、予算を引き出せない状況。市の財政が厳しいという事実もあり、新規の予算項目は難しく内々の話では来年度予算も0回答とのこと。

### 4. 地域コーディネーターとしての役割

地域コーディネーターとして、各組織との連携を模索する必要があると感じている。各種機関とコミュニケーションはとれているが、運営資金の問題は難しい。

### 5. 今後の展望

国際交流協会の立ち上げ時から関与したが、立ち上げ時の失敗があったと反省している。最初から市側と協力して立ち上げる必要があった。

\* 交流協会がなくなると市側も困ることはわかっている。会の執行部では1回解散、休眠しようという意見も多い。

\* 本会が法人組織ではないため、助成金申請が難しいという状況がある。川口市で実施している日本語教育のNPO法人を八街市でも展開するという選択肢も考えている。